

検討結果報告書（案）における前回検討会議からの修正点

頁	最終案	頁	第7回検討会議（案）	備考
はじめに		はじめに		
1	<p>我が国においては、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、子どもたちが将来を見据えて社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていくことを目指している。</p> <p>また、国民一人一人が幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングの向上を図っていくことを目指している。</p> <p>これらのことから、本県の子どもたちが変化し続ける社会に対応するために必要となる力を身に付け、未来を切り拓き、豊かな人生を送るとともに持続可能な社会の創り手となることができるよう、学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための「魅力ある高等学校づくり」を更に推進することが必要である。</p> <p style="text-align: center;">（略）</p> <p>本検討結果報告書においては、子どもたちをまんなかに置いて考え、将来を見据えた県立高等学校の在り方について提言している。</p> <p>子どもたちは生まれてくる時代や場所を選ぶことができない。だからこそ、生まれ育った環境にかかわらず、未来を担う全ての子どもたちがふるさと青森を愛し、「青森県で学びたい」「青森県で学べて良かった」と思えるよう、より良い教育環境を整えることが、今を生きる我々の使命であると考え。</p>	1	<p>社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、子どもたちが将来を見据えて社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていくことが求められている。</p> <p>また、国民一人一人が幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングの向上を図っていくことが求められている。</p> <p>これらのことから、本県の子どもたちが変化し続ける社会に対応するために必要となる力を身に付け、未来を切り拓き、豊かな人生を送るとともに持続可能な社会の創り手となることができるよう、学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための「魅力ある高等学校づくり」を更に推進することが求められる。</p> <p style="text-align: center;">（略）</p> <p>本検討結果報告書においては、子どもたちをまんなかに考え、将来を見据えた県立高等学校の在り方について提言している。</p> <p>子どもたちは生まれてくる時代や場所を選ぶことができない。だからこそ、生まれ育った環境にかかわらず、未来を担う全ての子どもたちがふるさと青森を愛し、「青森県で学びたい」「青森県で学べて良かった」と思えるよう、より良い教育環境を整えることが、今を生きる我々の責務であると考え。</p>	<p>文言整理</p> <p>文言整理</p> <p>文言整理</p> <p>意見を踏まえ修正</p> <p>意見を踏まえ修正</p>
第1	魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方	第1	魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方	
2	<p>1 高等学校教育を取り巻く現状</p> <p>○ また、ほぼ全ての中学生が高等学校に進学しており、高等学校においては、生徒の能力、適性、興味・関心、進路志望等が一層多様化しているとともに、特別な教育的支援を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒、外国につながるのある生徒等、様々な事情を抱えた生徒が在籍しているという実態がある。</p> <p>○ このような中、地理的状況や学校・課程・学科にかかわらず、生徒の多様なニーズに対応した柔軟で質の高い学びを実現し、全ての生徒の可能性を最大限に引き出す「多様性への対応」を図りつつ、全ての生徒が社会で生きていくために必要となる力を身に付けられるよう「共通性の確保」を併せて進め、「生徒を主語にした」高等学校教育を実現することが求められている。</p>	2	<p>1 高等学校教育を取り巻く現状</p> <p>○ また、ほぼ全ての中学生が高等学校に進学しており、高等学校においては、生徒の能力、適性、興味・関心、進路志望等が一層多様化しているとともに、特別な教育的支援を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒、外国につながるのある生徒等、様々な事情を抱えた生徒が在籍しており、実態も多様化している。</p> <p>○ このような中、地理的状況や学校・課程・学科にかかわらず、生徒の多様なニーズに対応した柔軟で質の高い学びを実現し、全ての生徒の可能性を最大限に引き出す「多様性への対応」を図りつつ、全ての生徒が社会で生きていくために必要となる力を身に付けられるよう「共通性の確保」を併せて進めることが高等学校に求められている。</p> <p>○ 「多様性への対応」と「共通性の確保」を果たしていくことにより、高等学校教育の一層の質の確保・向上、各校のスクール・ミッションやスクール・ポリシーを踏まえた特色ある教育活動の展開など、「生徒を主語にした」高等学校教育を実現することが期待される。</p>	<p>文言整理</p> <p>内容を統合</p>

頁	最終案	頁	第7回検討会議（案）	備考
2		2	³ <u>スクール・ミッション：各校に求められる役割や目指すべき学校像等を、県教育委員会において明確化したもの。</u> ⁴ <u>スクール・ポリシー：スクール・ミッションに基づき、一貫性を持って教育活動を進めるため、各校において、育成すべき資質・能力、教育課程の編成及び実施、入学者の受入れに関する具体的な方針についてまとめたもの。</u>	注釈を削除
3	2 「魅力ある高等学校づくり」の視点 ○ (略) こうした環境づくりに当たっては、教員がゆとりを持ち、生き生きと日々の教育活動に取り組むことができるよう、 <u>教員の負担軽減を図るなど、一層の配慮が必要である。</u>	3	2 「魅力ある高等学校づくり」の視点 ○ (略) こうした環境づくりに当たっては、教員がゆとりを持ち、生き生きと日々の教育活動に取り組むことができるよう <u>な配慮が必要である。</u>	意見を踏まえ修正
4	3 高等学校教育の方向性 (3) 高等学校に求められること ○ 生まれ育った環境にかかわらず、一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供することで、生徒のウェルビーイングの向上を図る必要がある。	4	3 高等学校教育の方向性 (3) 高等学校に求められること ○ 生まれ育った環境にかかわらず、一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供することで、生徒のウェルビーイングの実現を目指す必要がある。	文言整理
第2 学校・学科の充実の方向性		第2 学校・学科の充実の方向性		
5	1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり (1) 教育活動の更なる充実 ⁶ <u>スクール・ミッション：各校に求められる役割や目指すべき学校像等を、県教育委員会において明確化したもの。</u> ⁷ <u>スクール・ポリシー：スクール・ミッションに基づき、一貫性を持って教育活動を進めるため、各校において、育成すべき資質・能力、教育課程の編成及び実施、入学者の受入れに関する具体的な方針についてまとめたもの。</u>	5	1 これからの時代に求められる高等学校の魅力づくり (1) 教育活動の更なる充実	注釈を追加
6	② ICTの活用による教育活動の充実 ○ なお、遠隔授業を実施する場合は、教科・科目の特性を考慮した上で、幅広い進路志望等に対応するため、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目や、教員配置が困難な教科・科目を開設できる体制を整備することが必要である。	6	② ICTの活用による教育活動の充実 ○ なお、遠隔授業を実施する場合は、教科・科目の特性を考慮した上で、幅広い進路志望等に対応するため、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目や、教員配置が困難な教科・科目を <u>受講</u> できる体制を整備することが必要である。	文言整理
6	③ 特別な教育的支援を必要とする生徒への教育の充実 ○ このほか、スクールカウンセラー等の専門スタッフの配置の充実、教育支援センター（ <u>適応指導教室</u> ） ⁹ や児童相談所等の関係機関との連携、高等学校内への特別支援学校の分教室の設置も考えられる。	6	③ 特別な教育的支援を必要とする生徒への教育の充実 ○ このほか、スクールカウンセラー等の専門スタッフの配置の充実、教育支援センターや児童相談所等の関係機関との連携、高等学校内への特別支援学校の分教室の設置も考えられる。	文言整理
6	⁹ <u>教育支援センター（適応指導教室）：不登校児童生徒等に対する指導を行うために教育委員会及び首長部局が、教育センター等学校以外の場所や学校の余裕教室等において、学校生活への復帰を支援するため、児童生徒の在籍校と連携をとりつつ、個別カウンセリング、集団での指導、教科指導等を組織的、計画的に行う組織として設置したもの。</u>	6		注釈を追加

頁	最終案	頁	第7回検討会議（案）	備考
7	<p>(2) 多様な主体との連携・協働</p> <p>① 高等学校間・学科間の連携</p> <p>○ 県全体の教育の質の確保・向上のため、重点校・拠点校が中核となって各校と連携し、多様な他者との交流による生徒の成長や、教員の指導方法等の共有による教員の資質向上につながるなどの<u>効果がある</u>一方で、学校間のニーズが一致する取組が難しいなどの課題もある。</p>	7	<p>(2) 多様な主体との連携・協働</p> <p>① 高等学校間・学科間の連携</p> <p>○ 県全体の教育の質の確保・向上のため、重点校・拠点校が中核となって各校と連携し、多様な他者との交流による生徒の成長や、教員の指導方法等の共有による教員の資質向上につながるなど、<u>一定の成果が上がっている</u>一方で、学校間のニーズが一致する取組が難しいなどの課題もある。</p>	文言整理
7	<p>② 異なる校種間の連携</p> <p>○ 小・中学校との合同行事や高校生による学習指導の取組等の異年齢交流は、高校生の自己有用感や郷土愛の醸成につながるほか、小・中学生にとっても教育的効果が高いなど、高校生と小・中学生の双方に好影響を与えている一方で、連携の主体や目的が不明確である場合、十分な効果が得られないという課題もある。</p> <p>(略)</p> <p>○ また、大学等との連携により、高等学校段階から高いレベルの教育・研究等に触れることができるという効果がある一方で、移動の負担が生じることや<u>単位認定が難しい</u>などの課題もある。</p>	7	<p>② 異なる校種間の連携</p> <p>○ 小・中学校との合同行事や学習指導の取組等の異年齢交流は、高校生の自己有用感や郷土愛の醸成につながるほか、小・中学生にとっても教育的効果が高いなど、高校生と小・中学生の双方に好影響を与えている一方で、連携の主体や目的が不明確である場合、十分な効果が得られないという課題もある。</p> <p>(略)</p> <p>○ また、大学等との連携により、高等学校段階から高いレベルの教育・研究等に触れることができるという効果がある一方で、移動の負担が生じることや<u>進学後の単位としての認定が難しい</u>などの課題もあり、<u>実用的で実質的な連携による更なる取組の充実が求められる</u>。</p>	文言整理 意見を踏まえ修正
8	<p>③ 地域や関係機関等との連携</p> <p>○ より良い学校教育を通してより良い社会を創るという理念を学校と社会が共有し、<u>社会と連携・協働しながら、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を育む</u>「社会に開かれた教育課程」を実現していくことが求められている。</p>	8	<p>③ 地域や関係機関等との連携</p> <p>○ より良い学校教育を通してより良い社会を創るという理念を学校と社会が共有し、<u>どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にし</u>ながら、<u>社会との連携・協働により</u>「社会に開かれた教育課程」を実現していくことが求められている。</p>	意見を踏まえ修正
9	<p>2 これからの時代に求められる力を育む学科等の魅力づくり</p> <p>○ さらに、生徒の学習意欲の向上を<u>図る</u>ため、各学科等の魅力向上と情報発信、知識・技術の高度化に対応した教員の資質向上、本県産業の方向性を踏まえた地域や企業等との連携が必要である。</p>	9	<p>2 これからの時代に求められる力を育む学科等の魅力づくり</p> <p>○ さらに、生徒の学習意欲の向上に<u>つなげていく</u>ため、各学科等の魅力向上と情報発信、知識・技術の高度化に対応した教員の資質向上、本県産業の方向性を踏まえた地域や企業等との連携が必要である。</p>	文言整理
9	<p>(1) 全日制課程</p> <p>① 普通科等</p> <p>ア 普通科</p> <p>○ 大学等への進学から就職まで幅広い進路志望に対応している一方で、教育内容が画一的・均質的であるというイメージを持たれやすい。</p> <p>○ このため、各校の教育資源や強みを生かしながら、<u>更なる特色化や魅力化を図るとともに、積極的に情報発信を行う必要がある</u>。</p>	9	<p>(1) 全日制課程</p> <p>① 普通科等</p> <p>ア 普通科</p> <p>○ 大学等への進学から就職まで幅広い進路志望に対応している一方で、教育内容が画一的・均質的になりやすい。</p> <p>○ このため、各校の教育資源や強みを生かしながら、<u>特色化や魅力化を図る必要がある</u>。</p>	意見を踏まえ修正
10	<p>エ スポーツ科</p> <p>○ スポーツに関する<u>学びや多様な他者とのスポーツを通じた交流</u>を通して、専門性を高めるだけでなく、豊かな心や自律心、協調性等を育成し、大学進学をはじめ、スポーツトレーナーや医療・福祉関係、栄養関係等、スポーツ関連の様々な方面に人財を輩出している一方で、より幅広い進路志望への対応が求められる。</p>	10	<p>エ スポーツ科</p> <p>○ スポーツに関する<u>専門科目や実習、多様な他者とのスポーツを通じた交流</u>を通して、専門性を高めるだけでなく、豊かな心や自律心、協調性等を育成し、大学進学をはじめ、スポーツトレーナーや医療・福祉関係、栄養関係等、スポーツ関連の様々な方面に人財を輩出している一方で、より幅広い進路志望への対応が求められる。</p>	文言整理

頁	最終案	頁	第7回検討会議（案）	備考
10	<p>オ 表現科</p> <p>○ <u>表現、演劇、舞台芸術等に関する専門科目や、外部人材を活用したワークショップ等</u>、表現に関する多様な学びを通して、コミュニケーション能力や表現力を育成しており、表現や演劇等に関する分野だけでなく、幅広い分野の大学等へ進学するなど、多様な人財を輩出している一方で、表現力が様々な分野で必要とされる力であることが中学生や保護者等に十分に理解されていない。</p>	10	<p>オ 表現科</p> <p>○ <u>表現や演劇、舞台芸術等に関する専門科目や、外部人材を活用したワークショップ等</u>の表現に関する多様な学びを通して、コミュニケーション能力や表現力を育成しており、表現や演劇等に関する分野だけでなく、幅広い分野の大学等へ進学するなど、多様な人財を輩出している一方で、表現力が様々な分野で必要とされる力であることが中学生や保護者等に十分に理解されていない。</p>	文言整理
11	<p>② 職業教育を主とする専門学科</p> <p>ア 農業科</p> <p>○ <u>地域や関係機関等と連携した実習や課題研究等、実践的な学びを通して</u>、就農者や農業関連分野への就職者、農業に関する大学や専修学校への進学者等、農業の様々な分野で必要とされる知識・技術を身に付けた人財を育成している一方で、農業を取り巻く環境の変化への対応が求められるほか、生徒数や教員数の減少に伴い、農地・施設の管理・運営が困難となっている。</p>	11	<p>② 職業教育を主とする専門学科</p> <p>ア 農業科</p> <p>○ <u>実践的な学びや課題解決型の学び、地域での学び等を通して</u>、就農者や農業関連分野への就職者、農業系大学等への進学者等、農業の様々な分野で必要とされる知識・技術を身に付けた人財を育成している一方で、農業を取り巻く環境の変化への対応が求められるほか、生徒数や教員数の減少に伴い、農地・施設の管理・運営が困難となっている。</p>	文言整理
11	<p>イ 工業科</p> <p>○ <u>地域や関係機関等と連携した実習や課題研究等、ものづくりを柱とした学びを通して</u>、工業技術の基礎・基本のみならず、人間力や実践力、先を見通す力等を身に付けた技術者を育成している一方で、工業を取り巻く環境の変化への対応が求められる。</p>	11	<p>イ 工業科</p> <p>○ <u>地域や関係機関等と連携した実習や課題研究等のものづくりを柱とした学びを通して</u>、工業技術の基礎・基本のみならず、人間力や実践力、先を見通す力等を身に付けた技術者を育成している一方で、工業を取り巻く環境の変化への対応が求められる。</p>	文言整理
11	<p>ウ 商業科</p> <p>○ <u>マーケティング、マネジメント、会計、ビジネス情報の4分野の商業に関する学びを通して</u>、課題発見・解決する力やチャレンジする力等の実践力を育成している一方で、商業科の学習内容が中学生や保護者等に十分に理解されていない。</p>	11	<p>ウ 商業科</p> <p>○ <u>商業の学習分野であるマーケティング、マネジメント、会計、ビジネス情報の4分野に関する学習や、まちづくりをテーマとした研究等の様々な実践や体験を通して</u>、課題発見・解決する力やチャレンジする力等の実践力を育成している一方で、商業科の学習内容が中学生や保護者等に十分に理解されていない。</p>	文言整理
12	<p>エ 水産科</p> <p>○ <u>漁業、航海、食品製造、船用機関等に関する学びを通して</u>、漁業従事者、食品加工及び船舶機関の専門家等、将来の水産業関連のスペシャリストや本県の水産業を担う人財を輩出している一方で、水産業の6次産業化・技術革新等、水産業を取り巻く環境の変化への対応が求められる。</p> <p>○ このため、水産業の果たす役割や魅力を踏まえた学びを提供するとともに、「つくり育てる漁業」を含めた水産業が抱える課題の解決や水産業の活性化に向け、地域や企業、研究機関等と一体となった学びを推進する必要がある。</p>	12	<p>エ 水産科</p> <p>○ <u>漁業、航海、食品製造、船用機関等に関する学習や実習等を通して</u>、漁業従事者、食品加工及び船舶機関の専門家等、将来の水産関連のスペシャリストや本県の水産業を担う人財を輩出している一方で、水産業の6次産業化・技術革新等、水産業を取り巻く環境の変化への対応が求められる。</p> <p>○ このため、水産業の果たす役割や魅力を踏まえた学びを提供するとともに、「つくり育てる漁業」を含めた水産業界が抱える課題の解決や水産業の活性化に向け、地域や企業、研究機関等と一体となった学びを推進する必要がある。</p>	文言整理
12	<p>オ 家庭科</p> <p>○ <u>生活と福祉、服飾文化、調理等に関する学びを通して</u>、専門的な知識・技術を身に付け、食や福祉、服飾等に関連する様々な方面に人財を輩出しているが、本県や地域の課題解決に寄与できる人財の育成が一層求められる。</p>	12	<p>オ 家庭科</p> <p>○ <u>生活と福祉、服飾文化、調理等に関する学習や実習等を通して</u>、専門的な知識・技術を身に付け、食や福祉、服飾等に関連する様々な方面に人財を輩出しているが、本県や地域の課題解決に寄与できる人財の育成が一層求められる。</p>	文言整理

頁	最終案	頁	第7回検討会議（案）	備考
12	<p>カ 看護科</p> <p>○ 看護に関する<u>学び</u>を通して、看護人材を数多く輩出している一方で、専攻科では取得できない保健師や助産師の資格、看護科の教員免許の取得を目指す生徒もおり、看護の<u>学び</u>を生かした幅広い進路志望の実現を支援することが求められる。</p>	12	<p>カ 看護科</p> <p>○ 看護に関する<u>学習や実習等</u>を通して、看護人材を数多く輩出している一方で、専攻科では取得できない保健師や助産師の資格、看護科の教員免許の取得を目指す生徒もおり、看護の<u>学び</u>を生かした幅広い進路志望の実現を支援することが求められる。</p>	文言整理
13	<p>③ 総合学科</p> <p>○ 総合学科は、普通科等及び職業教育を主とする専門学科に並ぶ選択肢として、共通教科から専門教科まで幅広く科目を開設し、生徒の能力や適性、興味・関心等に応じた教育活動を行<u>い</u>、多様な進路志望に対応している。</p> <p>○ また、原則として全ての生徒が入学年次に履修する「産業社会と人間」を通して、高等学校卒業後の進路を含めた自己の在り方・生き方について考えることで、将来の見通しを持った系列・科目の選択や職業観・勤労観の育成につながっている。</p>	13	<p>③ 総合学科</p> <p>○ 総合学科は、普通科等及び職業教育を主とする専門学科に並ぶ選択肢として、共通教科から専門教科まで幅広く科目を開設し、生徒の能力や適性、興味・関心等に応じた教育活動<u>を推進し</u>、多様な進路志望に対応している。</p> <p>○ また、原則として全ての生徒が入学年次に履修する「産業社会と人間」を通して、高等学校卒業後の進路を含めた自己の在り方・生き方について考えることで、将来の見通しを持った系列<u>や</u>科目の選択や職業観・勤労観の育成につながっている。</p>	文言整理
14	<p>3 学校・学科の魅力づくりに向けた教育制度</p> <p>○ 教育制度の充実による学校・学科の魅力づくりに向け、生徒の多様なニーズや他県の事例等を踏まえながら、中高一貫教育や全日制普通科単位制、総合選択制、コミュニティ・スクール等の教育制度を活用した教育内容の充実や情報発信、導入校の拡充や見直しを含めた今後の在り方について検討する必要がある。</p>	14	<p>3 学校・学科の魅力づくりに向けた教育制度</p> <p>○ 教育制度の充実による学校・学科の魅力づくりに向け、生徒の多様なニーズや他県の事例等を踏まえるとともに、<u>生徒数の減少も見据えながら</u>、中高一貫教育や全日制普通科単位制、総合選択制、コミュニティ・スクール等の教育制度を活用した教育内容の充実や情報発信、導入校の拡充や見直しを含めた今後の在り方について検討する必要がある。</p>	文言整理
14	<p>(2) 全日制普通科単位制</p> <p>○ <u>既導入校については</u>、こうした主体的な科目選択が可能となる単位制のメリットを生かせるような指導・支援により、生徒の学習意欲を喚起する必要がある。</p>	14	<p>(2) 全日制普通科単位制</p> <p>○ こうした主体的な科目選択が可能となる単位制のメリットを生かせるような指導・支援により、生徒の学習意欲を喚起する必要がある。</p>	文言整理
15	<p>(3) 総合選択制</p> <p>○ 新たな導入については、これまでの<u>効果</u>や課題を検証し、学科の専門性を生かした教育活動の更なる充実に向けた在り方を検討した上で、判断する必要がある。</p>	15	<p>(3) 総合選択制</p> <p>○ 新たな導入については、これまでの<u>成果</u>や課題を検証し、学科の専門性を生かした教育活動の更なる充実に向けた在り方を検討した上で、判断する必要がある。</p>	文言整理
第3 学校配置の方向性		第3 学校配置の方向性		
16	<p>1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点</p> <p>○ こどもの数が減少している中、一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供することで、生徒のウェルビーイングの<u>向上を図る</u>必要がある。</p>	16	<p>1 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置の観点</p> <p>○ こどもの数が減少している中、一定の水準を満たした教育や、誰一人取り残さないきめ細かな教育を提供することで、生徒のウェルビーイングの<u>実現を目指す</u>必要がある。</p>	文言整理
16	<p>(2) 充実した教育環境の整備</p> <p>○ 特別な教育的支援を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒が増加していることを踏まえ、課程等にかかわらず、こうした様々な事情を抱えた生徒の多様な教育的ニーズ<u>に対応</u>する必要がある。</p>	16	<p>(2) 充実した教育環境の整備</p> <p>○ 特別な教育的支援を必要とする生徒や義務教育段階における不登校経験を有する生徒が増加していることを踏まえ、課程等にかかわらず、こうした様々な事情を抱えた生徒の多様な教育的ニーズ<u>へ対応</u>する必要がある。</p>	意見を踏まえ修正

頁	最終案	頁	第7回検討会議（案）	備考
17	<p>2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置</p> <p>(1) 全日制課程</p> <p>① 学校配置の考え方</p> <p>○ (略) 学校配置に当たっては、各校が担うそれぞれの役割に応じてより特色ある教育活動を実践することができる教育環境を提供する必要がある。</p>	17	<p>2 魅力ある高等学校づくりに向けた学校配置</p> <p>(1) 全日制課程</p> <p>① 学校配置の考え方</p> <p>○ (略) 学校配置に当たっては、各校がそれぞれの役割に応じてより特色ある教育活動を実践することができる教育環境を提供する必要がある。</p>	意見を踏まえ修正
17	<p>② 学校規模</p> <p>○ 青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針では、生徒数が減少していく中であっても、生徒一人一人がこれからの時代に求められる力を身に付けるため、特色ある教育活動を充実させるとともに、一定の学校規模を維持することとし、学校規模の標準が定められている。</p> <p>○ 一方で、学校規模の標準を満たさない場合であっても、生徒一人一人に目が行き届いたきめ細かな指導や、地域と密着した様々な体験活動等の実践的な学びの提供が可能となっている。</p>	17	<p>② 学校規模</p> <p>② 学校規模</p> <p>○ 青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針（以下「基本方針」という。）では、生徒数が減少していく中であっても、生徒一人一人がこれからの時代に求められる力を身に付けるため、特色ある教育活動を充実させるとともに、一定の学校規模を維持することとし、学校規模の標準が定められている。</p> <p>○ 一方で、学校規模の標準を満たさない場合であっても、生徒一人一人に目が行き届いたきめ細かな指導や、地域と密着した様々な実体験を通じた学びの提供が可能となっている。</p>	文言整理
18	<p>③ 小規模校の配置</p> <p>○ 生徒数が減少する中であっても、各地区における中学生の進路の選択肢を確保するため、これまで小規模校を配置してきたところであり、小規模校を希望する生徒にとって、小規模校はセーフティネットとしての役割を果たしてきた。また、<u>地域の未来を担う人財の育成に寄与してきた。</u></p> <p>○ 一方で、大規模校と比較すると、小規模校では、多様な生徒との関わりが少なく、人間関係が固定化されやすいほか、<u>教員数や生徒数が少ないため、教科・科目の専門性の維持や学校単独での行事の実施が難しい場合もあること等が課題として挙げられる。</u></p> <p>○ これらのことを踏まえ、「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点を考慮し、今後とも小規模校の配置に配慮するとともに、配置に当たっては、地域と密着した様々な体験活動を行うなど、小規模校の特長を生かした教育活動を推進するほか、近隣の高等学校等との連携による合同授業や合同行事の実施、配信センターからの遠隔授業の実施、地域や関係機関等との共同事業体（コンソーシアム）の構築等、小規模校における教育活動の充実を図る必要がある。</p>	18	<p>③ 小規模校の配置</p> <p>○ 生徒数が減少する中であっても、各地区における中学生の進路選択肢を確保するため、これまで小規模校を配置してきたところであり、小規模校を希望する生徒にとって、小規模校はセーフティネットとしての役割や地域の未来を担う人財を育成する役割を果たしてきた。</p> <p>○ 一方で、小規模校では、<u>大規模校に比べ多様な生徒との関わりが少なく、人間関係が固定化されやすいほか、教員数の減少による教科・科目の専門性の維持や生徒数の減少による学校単独での行事の実施が難しい場合もあること等が課題として挙げられる。</u></p> <p>○ これらのことを踏まえ、「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点を考慮し、今後とも小規模校の配置に配慮するとともに、配置に当たっては、地域と密着した様々な実体験を通じた学びを行うなど、小規模校の特長を生かした教育活動を推進するほか、近隣の高等学校等との連携による合同授業や合同行事の実施、配信センターからの遠隔授業の実施、地域や関係機関等との共同事業体（コンソーシアム）の構築等、小規模校における教育活動の充実を図る必要がある。</p>	文言整理

頁	最終案	頁	第7回検討会議（案）	備考
18	<p>²¹ 地域校：学校規模の標準を満たさない高等学校のうち、募集停止等により高等学校への通学が困難な地域が新たに生じることとなる高等学校であり、地域における通学状況を考慮した上で配置している。なお、<u>青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針では、地域校への対応として、募集停止等の基準を以下のとおり定めている。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>2学級規模の地域校については、入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として翌年度に1学級規模とする。</u> ・ <u>1学級規模の地域校については、募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合、募集停止等に向けて、当該高等学校の所在する市町村等と協議する。</u> 	18	<p>²¹ 地域校：学校規模の標準を満たさない高等学校のうち、募集停止等により高等学校への通学が困難な地域が新たに生じることとなる高等学校であり、地域における通学状況を考慮した上で配置している。</p>	注釈の記載を追加
19	<p>（2）定時制課程・通信制課程</p> <p>○ こうした様々な事情を抱えた生徒や多様な学び方のニーズに対応するため、現状の配置を<u>基本としつつ</u>、全日制課程と合わせた学校配置を含め、拡充についても検討する必要がある。</p>	19	<p>（2）定時制課程・通信制課程</p> <p>○ こうした様々な事情を抱えた生徒や多様な学び方のニーズに対応するため、現状の配置を<u>継続し</u>、全日制課程と合わせた学校配置を含め、拡充についても検討する必要がある。</p>	文言整理
第4 地域等の理解と協力の下での魅力ある高等学校づくり		第4 地域等の理解と協力の下での魅力ある高等学校づくり		
21	<p>○ 具体的には、市町村や<u>P T A</u>等と意見交換する場を設定し、あらかじめ地区の具体的な学校配置等について意見を伺うとともに、実施計画等について、広く県民へ説明し意見を伺う場を設定したり、パブリック・コメントを実施したりする必要がある。</p>	21	<p>○ 具体的には、市町村や<u>P T A関係者</u>等と意見交換する場を設定し、あらかじめ地区の具体的な学校配置等について意見を伺うとともに、実施計画等について、広く県民へ説明し意見を伺う場を設定したり、パブリック・コメントを実施したりする必要がある。</p>	意見を踏まえ修正

頁	最終案	頁	第7回検討会議（案）	備考
おわりに	おわりに	おわりに	おわりに	
22～ 23	<p>この間、各市町村、県小学校長会、県中学校長会、県高等学校長協会、<u>P T A</u>、産業界関係者への意見聴取、県内13校の学校視察、高等学校教育に関する意識調査等を通して、本県高等学校教育の現状と課題の把握に努め、多角的な視点から審議・検討を重ねてきた。</p> <p>(略)</p> <p>この検討結果報告を踏まえ、県教育委員会において、令和10年度以降の県立高等学校教育改革の基本的な考え方を整理し、魅力ある高等学校づくりに向けた具体的な取組を推進することとなるが、検討結果報告の締めくくりとして以下の3つの点について<u>提言</u>したい。</p> <p>(略)</p> <p>第二に、学校における働き方改革の推進についてである。教員は公教育の要であり、教職生涯を通じて学び続け、子どもたち一人一人の学びを最大限に引き出す役割を担っている。このため、教員が心身ともに充実した状態で、子どもたちと向き合うことのできる時間を十分に確保し、より効果的な教育活動を行うことができる環境を整備する必要がある。<u>学校における働き方改革の推進に当たっては、学校、地域、保護者、企業、県教育委員会等の県全体が一体となって取組を進めることが重要である。特に、県教育委員会には、教員が自らの人間性や創造性を高め、能力や専門性を最大限に発揮し、生き生きと日々の教育活動に取り組むことができるよう、教員の業務の負担軽減を図るなど、学校における働き方改革の取組を加速していただきたい。</u></p> <p>第三に、入学者選抜制度についてである。社会が急激に変化し、中学生の進路志望の多様化が進むなど、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえると、選抜方法や実施時期等を柔軟に変えるなど、中学生にとってより良い制度となるよう、入学者選抜制度の在り方を検討していただきたい。</p> <p>(略)</p> <p>今後、更なる生徒数の減少が見込まれている中、魅力ある高等学校づくりに当たっては、高等学校が単独で充実した教育活動を展開していくには限界があり、学校、地域、保護者、企業、県教育委員会等が<u>横断的に連携</u>することが必要不可欠である。本検討会議においても幾度となく話題に上がった「<u>連携</u>」は、魅力ある高等学校づくりを進める上でのキーワードとなり得るものであり、多様な主体との連携・協働を図りながら、県全体が一体となって魅力ある高等学校づくりに向けた取組を進めることが求められる。</p> <p>県民の皆様の御理解と御協力を得ながら、本検討結果報告書の趣旨を踏まえた取組が進められ、本県高等学校教育のより一層の充実に資することを切に願っている。</p>	<p>22～ 23</p> <p>この間、各市町村、県小学校長会、県中学校長会、県高等学校長協会、<u>P T A</u>関係者、産業界関係者への意見聴取、県内13校の学校視察、高等学校教育に関する意識調査等を通して、本県高等学校教育の現状と課題の把握に努め、多角的な視点から審議・検討を重ねてきた。</p> <p>(略)</p> <p>この検討結果報告を踏まえ、県教育委員会において、令和10年度以降の県立高等学校教育改革の基本的な考え方を整理し、魅力ある高等学校づくりに向けた具体的な取組を推進することとなるが、検討結果報告の締めくくりとして以下の3つの点について<u>言及</u>したい。</p> <p>(略)</p> <p>第二に、学校における働き方改革の推進についてである。教員は公教育の要であり、教職生涯を通じて学び続け、子どもたち一人一人の学びを最大限に引き出す役割を担っている。このため、教員が心身ともに充実した状態で、子どもたちと向き合うことのできる時間を十分に確保し、より効果的な教育活動を行うことができる環境を整備する必要がある。県教育委員会には、教員が自らの人間性や創造性を高め、能力や専門性を最大限に発揮し、生き生きと日々の教育活動に取り組むことができるよう、教員の業務の負担軽減を図るなど、学校における働き方改革の取組を加速していただきたい。</p> <p>第三に、入学者選抜制度についてである。社会が急激に変化し、中学生の進路志望の多様化が進むなど、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえると、選抜方法や実施時期等を柔軟に変えるなど、中学生にとってより良い制度とするよう、入学者選抜制度の在り方を検討していただきたい。</p> <p>(略)</p> <p>今後、更なる生徒数の減少が見込まれている中、魅力ある高等学校づくりに当たっては、高等学校が単独で充実した教育活動を展開していくには限界があり、学校、地域、保護者、企業、県教育委員会等が<u>横断的かつ縦断的に連携</u>することが必要不可欠である。本検討会議においても幾度となく話題に上がった「<u>連携</u>」は、魅力ある高等学校づくりを進める上でのキーワードとなり得るものであり、多様な主体との連携・協働を図りながら、県全体が一体となって魅力ある高等学校づくりに向けた取組を進めることが求められる。</p> <p>県民の皆様の理解と協力を得ながら、本検討結果報告書の趣旨を踏まえた取組が進められ、本県高等学校教育のより一層の充実に資することを切に願っている。</p>	<p>意見を踏まえ修正</p> <p>意見を踏まえ修正</p> <p>意見を踏まえ修正</p> <p>文言整理</p> <p>文言整理</p> <p>文言整理</p>	